

講義科目名称： コース特別活動Ⅱ（食育・栄養教育コース） 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
須谷 和子、池上 益世、太田 誠、國末 直宏、辰口 和保、蜂須賀 のぞみ			
添付ファイル			

科目の概要	コース特別活動Ⅰ、関連する授業で学んだ知識を活かし実践的な食育・栄養教育活動ができるようにする。幼児期から高齢期にいたるまで幅広い対象者を想定し、各々のライフステージに見合った食育・栄養教育とは何かを考え食育媒体（ツール）を作成する。
授業の内容	<p>第1回目 概要説明</p> <p>第2回目 対象者、テーマ選定 対象者を取り巻く問題点を整理し、適したテーマを選定する。</p> <p>第3回目 グループワーク①</p> <p>第4回目 グループワーク②</p> <p>第5回目 進捗状況確認Ⅰ グループごとに進捗状況を報告する。</p> <p>第6回目 グループワーク③</p> <p>第7回目 グループワーク④</p> <p>第8回目 進捗状況確認Ⅱ グループごとに進捗状況を報告する。</p> <p>第9回目 グループワーク⑤</p> <p>第10回目 グループワーク⑥</p> <p>第11回目 進捗状況確認Ⅲ グループごとに進捗状況を報告する。</p> <p>第12回目 グループワーク⑦</p> <p>第13回目 グループワーク⑧</p> <p>第14回目 成果発表 グループごとに成果発表をする。 実践するイベントに応じて改良すべきところはないか、全員で検討する。</p> <p>第15回目 検証と仕上げ 第14回目で検討した内容をふまえてツールを完成させる。</p>
学習到達目標	オープンキャンパスや地域活動（健康フェアなど）で実践する。
授業の方法	グループワーク
成績評価の方法	グループ活動状況、ツールの完成度、実践時の参加態度を重視する。 平常点（60%） 実践時の参加態度（40%）
教科書・テキスト	栄養教育論、応用栄養学で使用したテキスト
参考書	
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	実践するイベントや場面をしっかりと把握しておくこと。
履修上の留意事項	グループに分かれて活動するため、お互い連携をとりあうこと。
オフィスアワー	水曜日 2限目（須谷）
課題に対するフィードバックの方法	

実務経験	管理栄養士
その他	